2016 年 6 月　熊本の被災状況を視察しました

４月に発生した熊本地震の状況を視察する為に、有馬代表理事と事務局で現地に赴きました

益城町にある熊本空港も、被災施設となっています

空港職員の方も被災者のはずですが、復興のために空港機能を維持しようと、懸命の努力をされているのが伝わります

熊本市内に本社のある新産住拓㈱さんに話を聞く事が出来ました。

県内累計供給戸数は５０００戸で、うち益城町には１００戸程度あるそうですが、いずれも倒壊や瓦の落下は無かったそうです！

しかし、地盤が動いたため傾斜が 6/1000 以上となって、全壊判定をうけたものが１０数件あると話されました

実際に現場を案内して頂きました。

益城町の幹線道路から住宅街に入ると、被害の大きさを目の当たりにします

案内頂いたのは新産住拓さんが１２年前に建築した住宅です

周辺の被害に較べると、一見無傷のようにも見える状態でしたが、玄関には「危険」の赤

紙。地盤が動いて 8/1000 の傾斜が発生したそうです

倒壊を免れたため、住人の方は無事に避難することが出来ました。

それこそが、住宅に求められる事柄ではないでしょうか

倒壊を免れたため、住人の方は無事に避難することが出来ました。

それこそが、住宅に求められる事柄ではないでしょうか

地震後、この建物に直交して地割れが現れました（矢印）

その激しい振動に建物が耐えられたのは、ベタ基礎を強化（立ち上がり幅１５０ミリ、底盤２９

０ミリ）したからではないかと話されました

実際、建物が基礎ごと左右に動いた跡が、地面に残っていました

益城町を阿蘇方面に行くと、シートを被った青い屋根ばかり目立つようになります

そうした中、屋根にほぼ損傷を受けていない集落を発見しました

何故こうも違うのか？

大きな屋根の家のお母さんに聞いてみました

「ここの集落は、宮崎さんが屋根やったから大丈夫だぁ」

明快な回答が返ってきました

地域に信頼できる職人さんが居る

値段が少々高いかも知れない

プライドが高い分、無愛想かもしれない

しかし、住人の命を守り、生活を支える人が身近に居る安心感、それが「大丈夫だ」の下

地になっている

復興の第一歩となる木造仮設住宅建設にあたり、一般社団法人日本建築士会連合会と連携して、熊本県に地域の建築事業者を紹介させていただきました

国土交通省の地域型住宅グリーン化事業に参加している事業者が主体です

集会所の中は、地元のスギが表しで使われ、イグサの香りと和風デザインで落ち着く空間です